

私の図書館活用術



私は、放課後に図書館に行くことが日課です。自習をしたり、新聞を読んだりしています。新聞の種類が多いので、読み比べをしたりもします。図書館は静かなので、私にとっては落ち着ける空間です。時々、図書館の中を探検します。普段通り過ぎてしまう所に面白そうな本を見つけた時は、とても嬉しいです。入学前は、大学図書館には難しそうな専門書ばかりが並んでいると思っていました。探している本が見つからない時は、図書館スタッフの方に相談します。



紹介者／池田 睦月（1年）

とても親切に対応してください。小さな図書館ですが、たくさんの魅力が詰まっていると思います。図書館のサービスを利用して、皆にとって居心地の良い場所になったら良いですね。

「いつもより少しだけ早く家を出て新聞を読もう」。3年生になって就職ガイダンスに出席するようになり、新聞を読む習慣をつけることにしました。以前は、試験期間中に勉強するためや、ゼミの本を探すためにしか訪れていなかった図書館でしたが、最近では毎日のようにお世話になっています。公立大の図書館には日本の新聞から英字新聞まで、何社もの新聞が置いてあるので目的に応じて読むことができます。時には気になるニュースをメモしたり、



紹介者／日田 美江（3年）

息抜きに雑誌を読んだり、様々な使い方があります。勉強や読書だけでなく、自分なりの図書館の活用方法を見つくと、図書館に行くのがもっと楽しくなるといいます。

私は図書館をよく利用するように心掛けています。図書館は、図書や学術雑誌以外の一般雑誌や新聞等のコーナーも充実しています。私は講義がない時に、新聞や雑誌を閲覧しています。図書を借りて読書することも大切ですが、併せて新聞や雑誌を読むことによって、最新の社会情報や、また講義に関連する記事と出会うことがあり、図書館を利用することによって、充実した学生生活を送ることができています。新聞等で興味・関心をもった記事に関して、関連する図書を読み進めれば、知識を深めることができ、さらに日々の学習意欲の向上にもつながっています。図書館は、個室研究室や閲覧席等も充実しているので、ぜひ図書館に立ち寄る機会を増やして、充実した学生生活に役立ててください。



紹介者／田中 秀喜（2年）

学生の頃、私は大学にいた大半の時間を図書館で過ごした。まず、マルチメディア室では英語ニュースが流れていたの、留学を考えていた私はここで毎日最低1時間は過ごした。次に、雑誌棚にざっと目を通し、むしろ自分の専門ではない分野の雑誌を斜め読みしていた。その合間に（！）講義やゼミの予習復習もするのだが、居心地の良い机をひそかに決めていた。論文を書くとか難しい本を読むときは、人の気配を遮断できる地下の書庫にもぐって集中



紹介者／田村恵理子（助教）

するための環境を求めた。このように、（学費以外の）余分なお金をかけずに衛星放送を聞き、雑誌を読み、冷暖房完備の静かな環境で勉強させてくれる大学図書館は、大変ありがたい存在なのである。

Camellia

Vol.4

— 図書館広報紙 —

【CONTENTS】

先生の本棚 P. 2

YOMMU! ～おすすめの1冊～ P. 3

私の図書館活用術 P. 4

図書館からのお知らせ P. 4



図書館からのお知らせ ☆ 2014 年度の新企画 ☆

☆「選書ツアー」初開催!!

図書館に所蔵する本を学生自らが選ぶことができる企画です。学習や研究に必要な本、教養や知識を身に付けるためにどうしても読みたい本など、実際に書店に行って、一緒に選んでみませんか？ 選書した本は図書館に専用コーナーを設置して展示する予定です。

あなたの選書した本が、あなただけではなく他の誰かの研究に役立つかもしれません。あなたの選書した本が、誰かの知的好奇心や読書欲求を喚起するかもしれません。こんなふうに想像したらワクワクしませんか？

企画の詳細については決まり次第お知らせしますので、楽しみにお待ちください。

☆ILLサービスの費用を一部無料化します!

研究やレポート・論文作成には情報収集が重要です。しかし、必要な資料がわかっていても、資料そのものを見ることができなければ、その情報は真に役立っているとは言えません。図書館では、学生の皆さんが「必要な資料が図書館にないっ!」と困ったとき、他大学から複写物（コピー）や図書などの現物を取り寄せることができる ILL サービスを提供していますが、これまでは全額有料でした。そこで、平成 26 年度は、学生の皆さんの経済的な負担を軽減し、情報収集を助けるべく、一定の条件のもと、ILL サービスの一部無料化を試行いたします。申込方法など詳しくは図書館職員までお尋ねください。

宮崎公立大学附属図書館

先生の本棚



福田 稔 (教授)

本に囲まれた静かな空間。ほんのり感じるアロマ。手元にはコーヒーとカステラ。膝の上に猫がいるとさらにいい。でも、今住んでいるマンションは猫が飼えないので、猫語の本やエッセイ集をそろえている。中でも『作家の猫』（平凡社）は何度読んでも飽きない。

面白いと感じたらどんなジャンルでも読むが、この数年はミステリーを読むことが多くなった。謎解きが好きで、これは研究も同じだろう。熱中すると1日300ページ以上読むことも。だから、1日に100ページくらい読みたいと感じない本は、自分に合わないかと判断して諦める（英語の本はそこまで早く読めないけど）。一般書は元書斎にあるフィンランド製の木の書架に収めている。

最近熟読した一冊は（僕が編集したから当たり前だけど）『真夏の夜に見る夢は』（みやざきエッセイスト・クラブ、鉾脈社）。一番繰り返し読んだのは、高1の時に買った『ヘッセ詩集』（新潮社）。珍しいのはレオナード・ニモイ（スター・トレックの役者）にサインをもらった『私はスポックだ』（英語版）。

外界をシャットアウトした現書斎の方は専門書や論文資料が中心（例外も多数有り）。専門書でもワクワクしながら読むし、感動もする。昨年出たストロイクとプットナムの共著『言語の構造設計』（ケンブリッジ大学出版、英語版）には心が震えた。ストロイクご本人からpdf原稿を送って頂いていたが、印刷してみると読みにくくて、出版されるのを待って一気に読んだ。昨年秋に招待された学会では、この本で提唱されている理論を使って発表をしたし、論文も出した。

知ること、分かること、発見することは楽しい。宮崎の、この小さな部屋から世界に向けて研究を発信するのは実に愉快だ。



おすすめの3冊

- ・『ヘッセ詩集』
ヘルマン・ヘッセ／著 高橋健二／訳 新潮社
- ・『作家の猫』
夏目房之介ほか／著 平凡社
- ・『オックスフォード古書修行』
中島俊郎／著 NTT出版



渡邊 英理 (准教授)

熊本生まれ鹿児島育ちのわたしにとって、はや二年目の宮崎は半故郷感覚。蔵書の大部分は都心では望めない広さの研究室だが本を読むのは自宅が多い。布団やソファで、自室の窓際で読む。今のところ並べる本も並べ方もその時々でアレンジ。季節ごとに表情を変えるコンパクトな棚は、長い「人生」の「愉しみ」となる活字と直近の原稿執筆の資料とが二重おきされている。

現在は、上橋菜穂子論の資料に、崎山多美や八重洋一郎などの沖縄文学、「奄美二世」の作家・干刈あがたの本が多く、米原万里の本や林芙美子の本も。また宮崎の沖縄奄美タウン波島の「聞き書き」をする中で九州のサークル運動に縁の石牟礼道子の言葉には触れたい。宝物は、中上健次『熊野集』の文庫本。中上の故郷新宮の路地が解体される時に書かれた連作だが、修士論文以来の、長いつきあいとなった。付箋だらけの、ぼろぼろの一冊は、わたしの研究者人生の原点である。現在刊行中の『中上健次集』には月報の執筆で参加するが、この美しい撰集に自分の言葉が挟まることを、幸運に思う。この月報、『夏目漱石辞典』項目執筆、共著、中国の雑誌などの現在の執筆予定に加え、のびのびになっている単著も今年まとめる予定だ。

最後に近年の読書から。いとうせいこうの小説『想像ラジオ』は、死者の声を扱う／救う小説言語で、根源的な「生きる」という営みと文学の関係を再確認した。ロードサイド文学の呼び声高い山内マリコの小説『ここは退屈、迎えに来て』は、まるで岡崎京子の漫画『リバーズ・エッジ』。こんな小説を待っていた。山内の最新作『アズミ・ハルコは行方不明』は岡崎の郊外／団地の切なさに阿部和重『シンセミア』の暴力と女たちの意趣返しが加わる。キッチュな地方都市で女同志の友愛の絆がエログロ色濃く「JK」（女子高生）と「大人女子」にもたらされ痛快だった。



おすすめの1冊

- ・『熊野集』
中上健次／著 講談社
- 路地のすべてを書いた、たえず新しい、読み終わる事のない本

YOMMU!

おすすめの1冊

『幼年期の終わり』

アーサー・C・クラーク／著 池田真紀子／訳

突如、地球の上空に出現した巨大な宇宙船。その住人達は、自分たちの姿を一切明かさず、また暴力的手段を一切用いずに地球から戦争や貧困、差別等を無くしていった。――宇宙船の出現から50年後、地球に平和と安全をもたらした彼らが遂に自分達の姿を明かし、その正体に人類は



紹介者／安楽 寛 (1年)

驚愕する…。『幼年期の終わり』とは何を意味するのか？ あなたが、新しい価値観に出会うことのできる一冊であることを約束します。

『聞く力:心をひらく35のヒント』

阿川佐和子／著

頑固なベテラン俳優、クールなスポーツ選手... 普段は多くを語らない人が、ついべらべらと本音を語ってしまう。なぜか。その答えはアガワの「聞く力」にあった。「上っ面な受け答えをしない」「相槌の極意」など、1000人ちかい人との対談、30回以上に亘るお見合い（未だ独身）のなかで、アガワが掴んだ35のコミュニケーション術。友だち、上司、恋人、いろんな人と もっともっと仲良くなれるヒントが詰まっています！



紹介者／崎平 結宇 (2年)

かで、アガワが掴んだ35のコミュニケーション術。友だち、上司、恋人、いろんな人と もっともっと仲良くなれるヒントが詰まっています！

『英語教育はなぜ間違っているのか』

山田雄一郎／著

グローバル化という言葉がすっかり定着した今日では、私たちは英語に対して言語以上の思い込みを少なからず持っているのではないだろうか。著者は、そんな私たち日本人が抱える英語に対する様々な思い込みや誤解について一つ一つ丁寧に、専門用語をできるだけ使わずに分



紹介者／那須 翔太 (3年)

かりやすく論じている。英語教育の諸問題についての見通しを得ることができ、これからの日本の英語教育について考えさせられる一冊である。

『自転車日記』（『漱石全集 第1巻』所収）

夏目漱石／著

数ある名作の中で、漱石に対し私が最も親近感を覚えた作品だ。ロンドン滞在時に強度の神経衰弱に悩まされた漱石は、下宿に閉じこもるようになったため、周囲の人々から戸外運動として自転車の練習を勧められていた。その悪戦苦闘の日々を綴ったエッセイである。後に文豪と呼ばれる彼が、ここは自転車用の道路では無いからよそでやれ、と警官からお咎め



紹介者／上野 麻衣 (1年)

を受ける、なんとも滑稽な情景が目につく。漢語調で語られる、当時のロンドンの様子にも注目したい。非常に短い文章だが、漱石特有のウィットに富んだ表現が随所に見られ、彼の魅力に惹かれること請け合いだ。

『政治のことよくわからないまま社会人になってしまった人へ』

池上彰／著

この本は、政治について一から説明されており、非常に分かりやすく、気軽に読める内容となっている。一目で理解できるイラストも所々入っている。我々国民にとっては遠い存在に感じられる「政治」だが、本書を読むことで、一人ひとりの生活に密接に関わっていることが分かる。政治について何も知らない、という人はもちろん、ある程度知っている人にとっても、きっと新たな発見があるだろう。



紹介者／松岡 秀樹 (2年)

治について何も知らない、という人はもちろん、ある程度知っている人にとっても、きっと新たな発見があるだろう。

『オーデュボンの祈り』

伊坂幸太郎／著

本といえば村上春樹しか読まない私が、図書館職員にお勧めを聞くと、「伊坂幸太郎とか、どう？」。それが著者との出会いであった。序盤から中盤にかけて、ちょっとした違和感程度に張り巡らされる伏線。それらを紡ぎ、一気に回収しながら駆け抜ける終盤。一度読んでも、伏線を楽し



紹介者／荒木 健次 (学務課)

みながら二度読める作家、それが伊坂幸太郎である。そんな著者のデビュー作が「オーデュボンの祈り」。まずは本著から、伊坂を読み進めてもらいたい。